

長崎県内のブドウとモモの自発休眠覚醒期マップ						
<p>[要約] メッシュ気象データと低温遭遇時間予測システムを使用して、ブドウとモモの施設栽培での加温開始時期を決定する指標として活用できる自発休眠覚醒期マップを作製した。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
平成9年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

施設栽培では自発休眠が覚醒してから加温を開始しなければ、発芽や開花の不良、不揃いを生じやすい。そのため、自発休眠覚醒期を的確に把握することが重要である。これまでの調査でブドウとモモの自発休眠覚醒に必要な低温を明らかにしたが、その結果を基に自発休眠期が視覚的にわかりやすいように県内マップの作成を試みた。

[成果の内容・特徴]

- ①長崎県内のブドウの主産地における自発休眠覚醒期（7.2℃以下の低温遭遇時間 300時間）は佐世保市，大村市が12月下旬，島原半島，西彼杵半島及び松浦市が1月上旬である。
- ②モモの主産地における自発休眠覚醒期（7.2℃以下の低温遭遇時間 800時間）は佐世保市，大村市で1月下旬，西彼杵半島で2月上旬，長崎市，島原半島海岸部が2月中旬である。

[成果の活用面・留意点]

- ①平年値の気象データを使用して作製しているため、年によってはマップの値と異なることがある。したがって、当該年の自発休眠覚醒期を予測するにはアメダスデータなどを使って、低温遭遇時間予測システムにより予測する。
- ②このマップはブドウは「巨峰」、モモは「日川白鳳」を基準として作製しているため、他の品種では異なる場合がある。

[具体的データ]

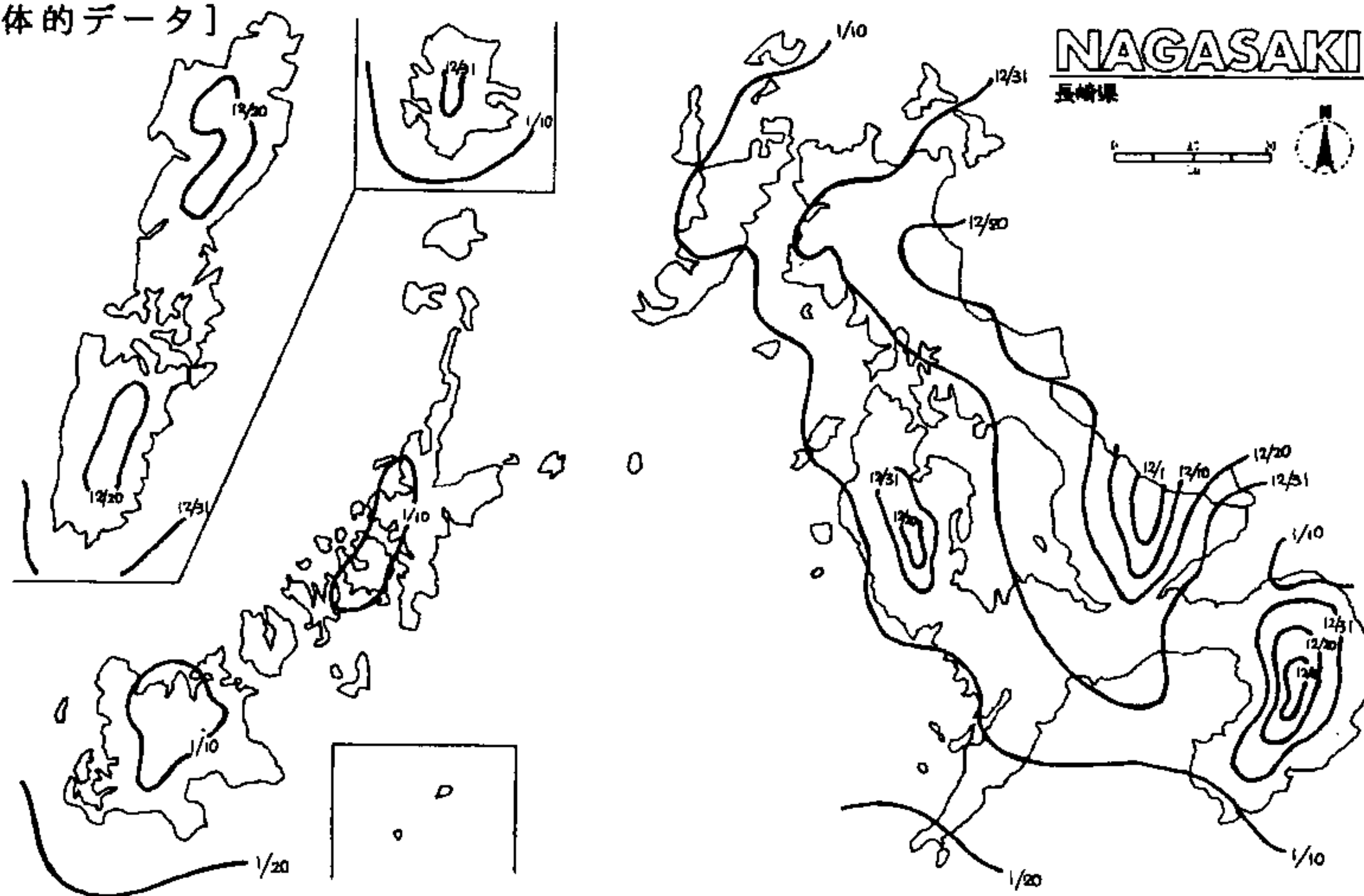


図1 長崎県内におけるブドウの自発休眠覚醒期の分布 (7.2℃以下300時間)

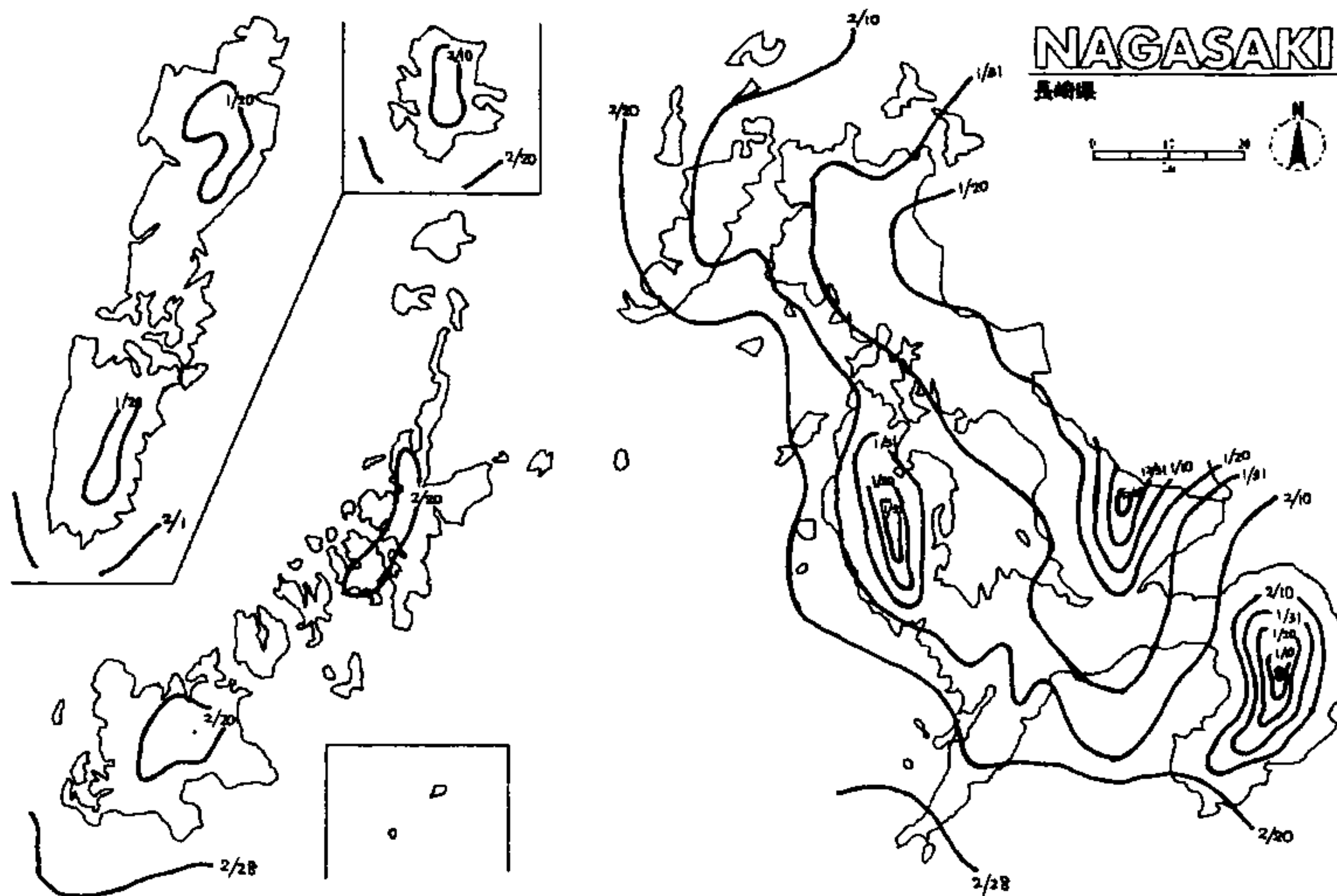


図2 長崎県内におけるモモの自発休眠覚醒期の分布 (7.2℃以下800時間)

[その他]

研究課題名：暖地の落葉果樹における早期出荷のための開花調節技術の確立
 予算区分：地域重要新技術
 研究期間：平成9年度（平成5～9年）
 研究担当者：林田誠剛，森田 昭
 既発表論文等：平成9年度長崎県果樹試験場業務報告